



# 名古屋工業大学 URAメールマガジン

2017年9月15日

Vol.006

発行:名古屋工業大学リサーチ アドминистраーション オフィス  
TEL 052-735-7424 URL <http://rao.web.nitech.ac.jp/>

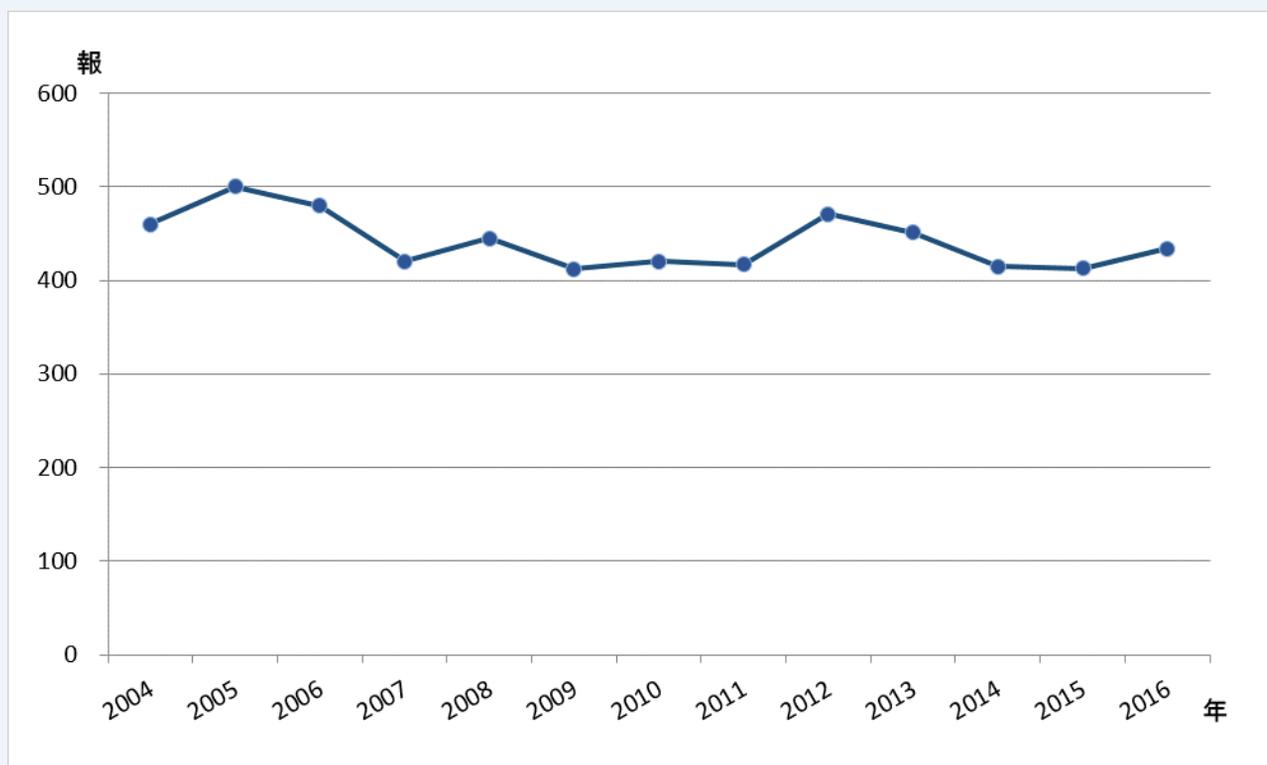
この10年間における日本の科学研究の実力低下が指摘されている。  
そこで名工大について過去13年間(第1期及び第2期中期計画期間)の研究力についてそのトレンドを分析した。研究力をどのような指標で測るかについては議論のあるところですが、この報告では、いくつかの指標(総論文数、TOP10%論文数、研究分野毎の論文数世界シェアとQ値、国際共著論文、科研費獲得額等)で分析した。

## INDEX

- 【1】名工大の論文総数の推移
- 【2】名工大のTOP10%論文数の推移
- 【3】名工大の第1期及び第2期中期計画期間における8分野毎の論文数シェアの推移
- 【4】名工大の第1期及び第2期中期計画期間における8分野毎のQ値の推移
- 【5】名工大の研究領域毎の相対被引用数(CNCI)の推移比較
- 【6】名工大における被引用数順位%と論文数の分布(第1期 vs 第2期中期計画期間の比較)
- 【7】国際共著論文のトレンド
- 【8】国立工業系大学における国際共著率の比較(国際共著論文数割合の比較)
- 【9】名工大の論文産出への科研費の関与
- 【10】科研費獲得額の推移

## 【1】名工大の論文総数の推移

2004-2005年のピーク時に比べると減少しているが、近年は横ばい。



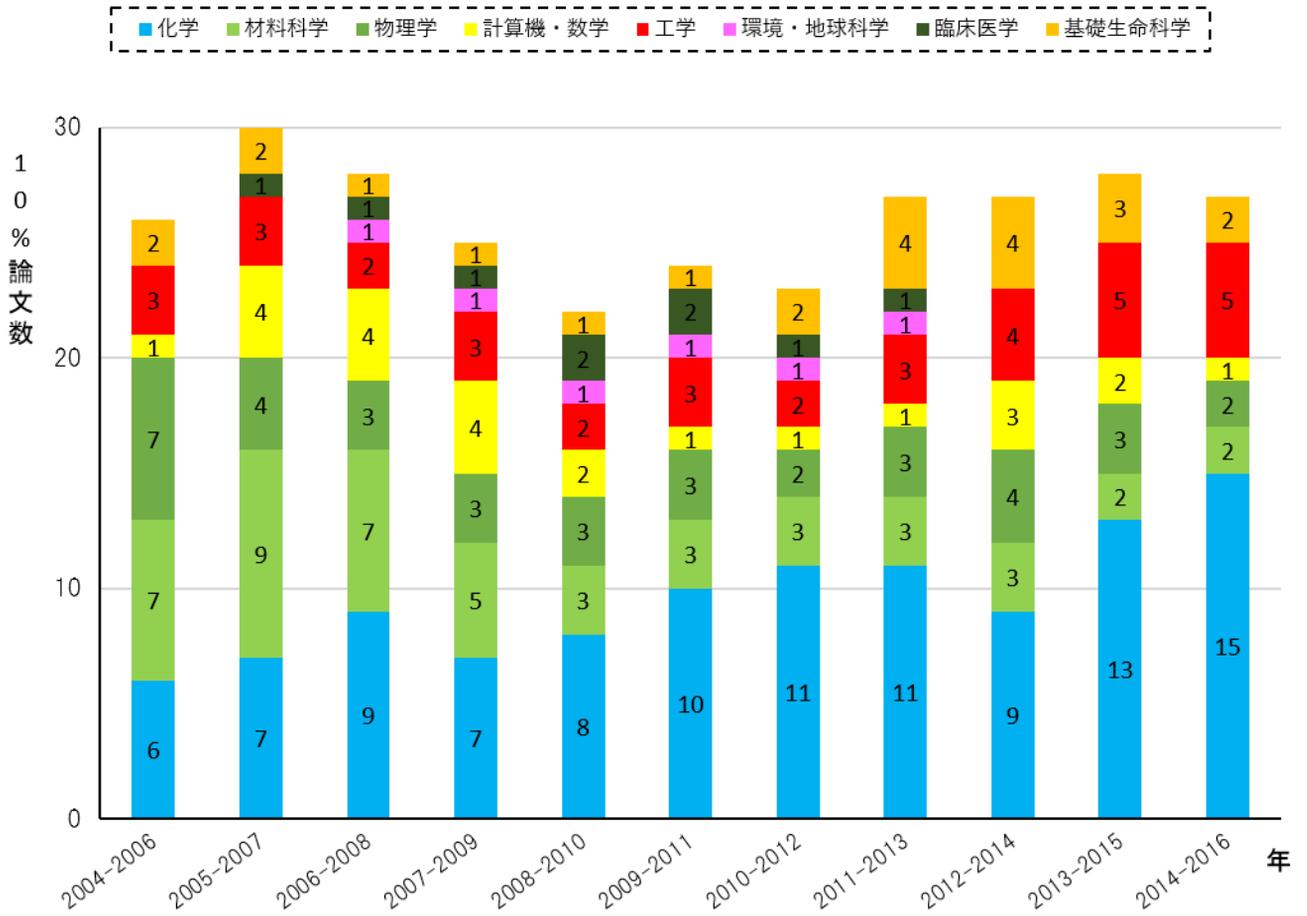
Document Type: [Article, Review]

Exported date 2017-04-12.

InCites dataset updated 2017-03-25. Includes Web of Science content indexed through 2016-12-31.

## 【2】名工大のTOP10%論文数の推移

優れた論文数はほぼ一定だが分野(本学の強み)の入れ替わりが顕著になっている。



| 分野      | 2004-2006 | 2005-2007 | 2006-2008 | 2007-2009 | 2008-2010 | 2009-2011 | 2010-2012 | 2011-2013 | 2012-2014 | 2013-2015 | 2014-2016 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 化学      | 6         | 7         | 9         | 7         | 8         | 10        | 11        | 11        | 9         | 13        | 15        |
| 材料科学    | 7         | 9         | 7         | 5         | 3         | 3         | 3         | 3         | 3         | 2         | 2         |
| 物理学     | 7         | 4         | 3         | 3         | 3         | 3         | 2         | 3         | 4         | 3         | 2         |
| 計算機・数学  | 1         | 4         | 4         | 4         | 2         | 1         | 1         | 1         | 3         | 2         | 1         |
| 工学      | 3         | 3         | 2         | 3         | 2         | 3         | 2         | 3         | 4         | 5         | 5         |
| 環境・地球科学 | 0         | 0         | 1         | 1         | 1         | 1         | 1         | 1         | 0         | 0         | 0         |
| 臨床医学    | 0         | 1         | 1         | 1         | 2         | 2         | 1         | 1         | 0         | 0         | 0         |
| 基礎生命科学  | 2         | 2         | 1         | 1         | 1         | 1         | 2         | 4         | 4         | 3         | 2         |
| 合計      | 26        | 30        | 28        | 25        | 22        | 24        | 23        | 27        | 27        | 28        | 27        |

この8分野は、Clarivate Analytics社(旧トムソン・ロイター社)のWeb of Scienceデータベース収録論文をEssential Science Indicator(ESI)の8分野に対応したものである。

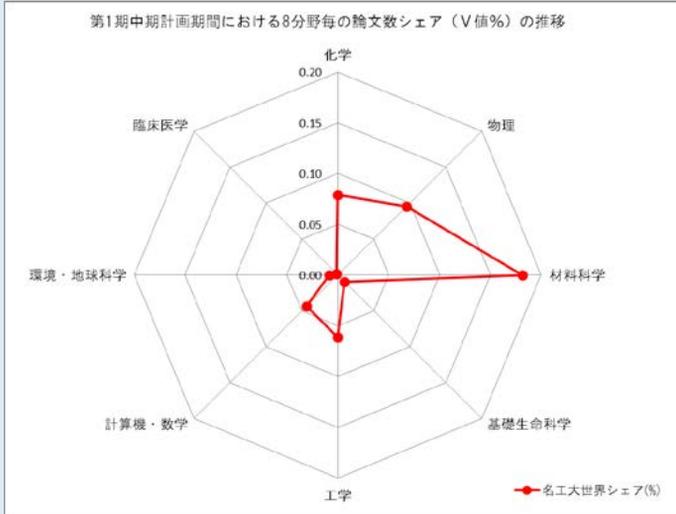
### 【 3 】 名工大の第1期及び第2期中期計画期間における 8分野毎の論文数シェアの推移

論文数毎の世界シェアは相対的に低下(世界全体の論文数の増加が著しい)。

第1期：2005-2010年



第2期：2011-2016年



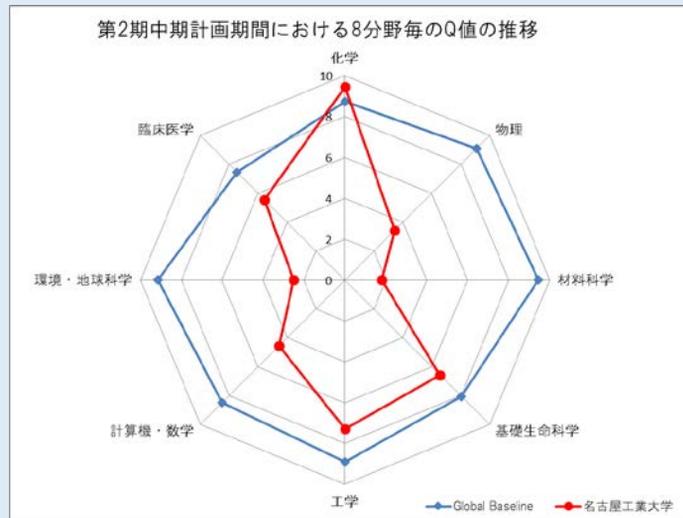
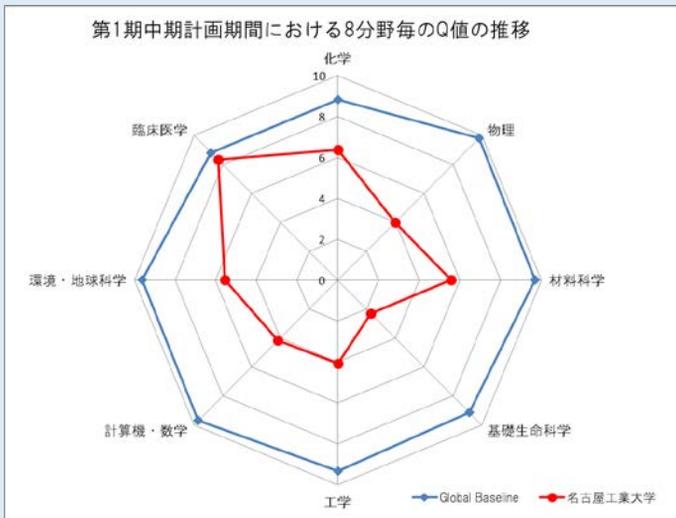
### 【 4 】 名工大の第1期及び第2期中期計画期間における 8分野毎のQ値の推移

論文の質(強い分野)については入れ替わりが顕著。Global Baseline を越えることが目標。

第1期：2005-2010年

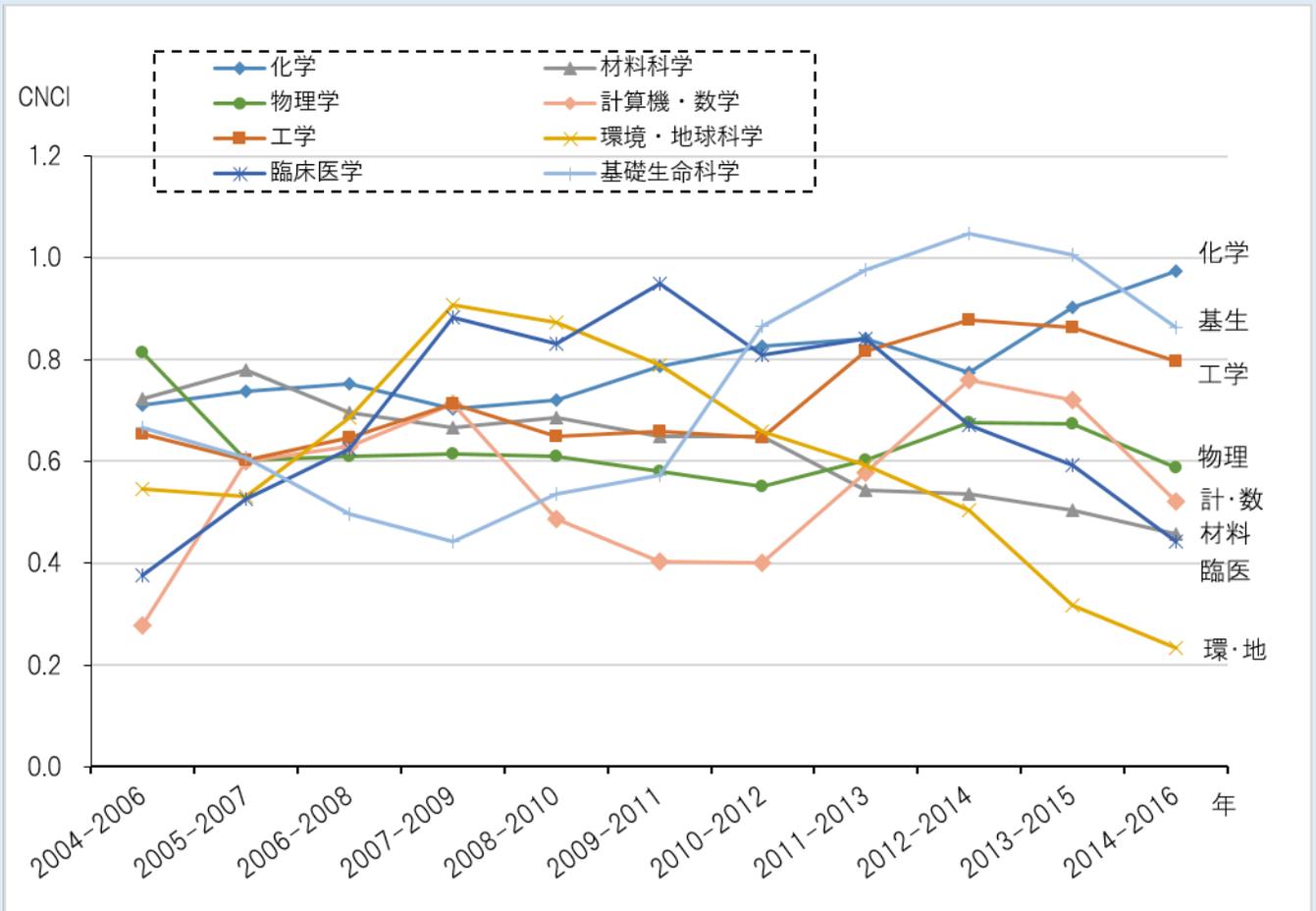


第2期：2011-2016年



### 【 5 】 名工大の研究領域毎の相対被引用数(CNCI)の推移比較

化学、工学、基礎生命科学が伸びている。全ての分野において右肩上がりが目標。



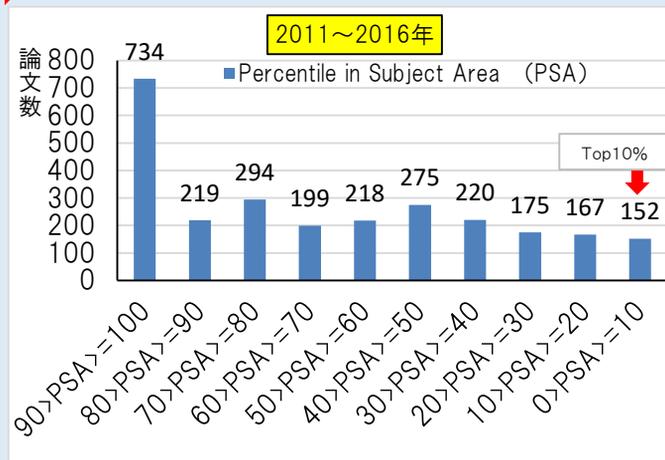
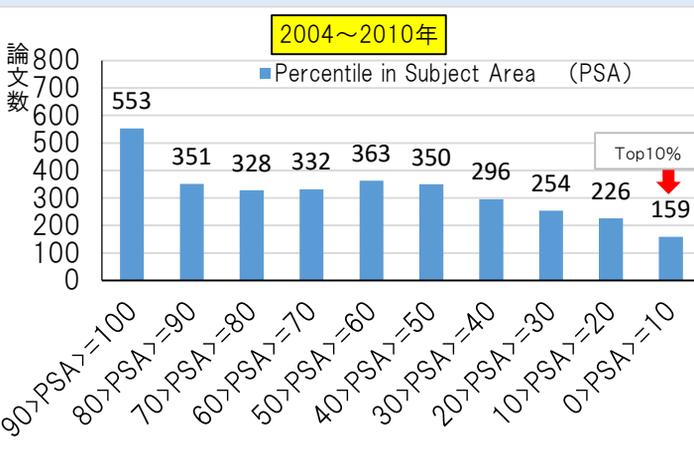
### 【 6 】 名工大における被引用数順位%と論文数の分布 (第1期 vs 第2期中期計画期間の比較)

第2期では総論文数が減少し、中位のPSA値が低下。

対象論文数：3212報

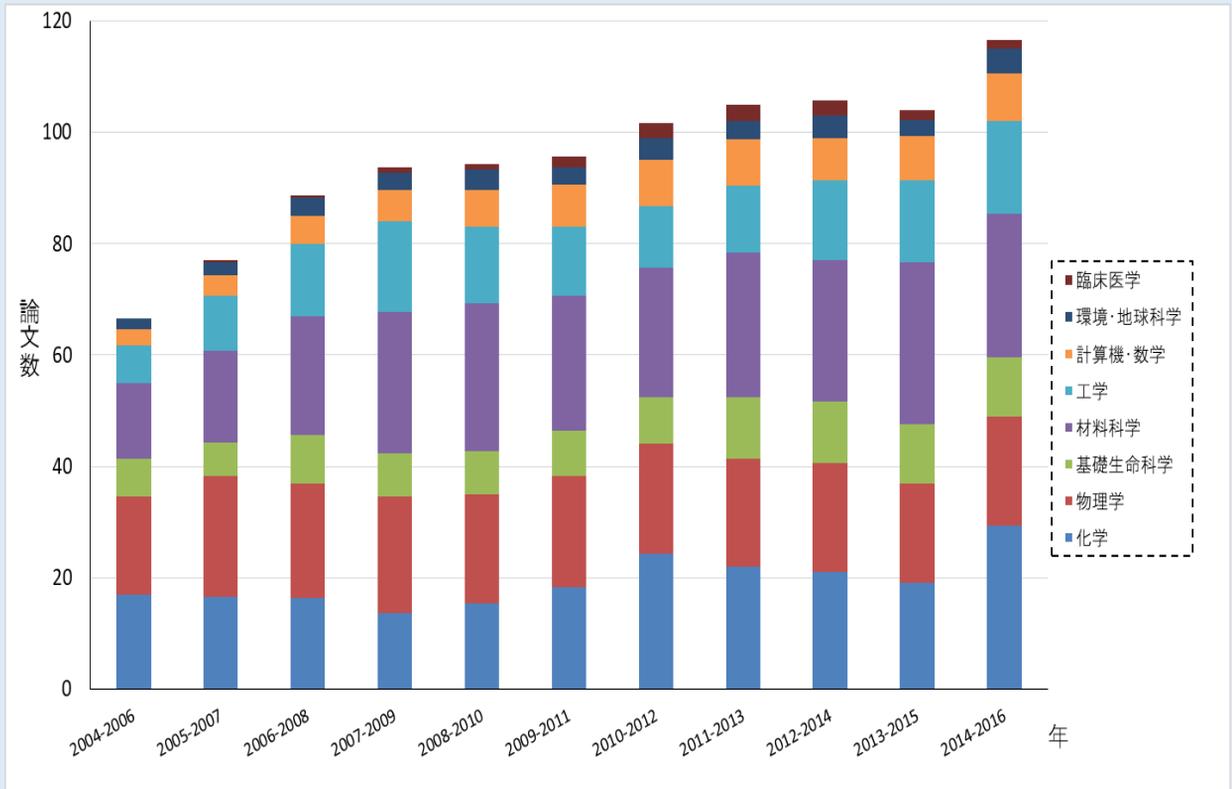


対象論文数：2653報



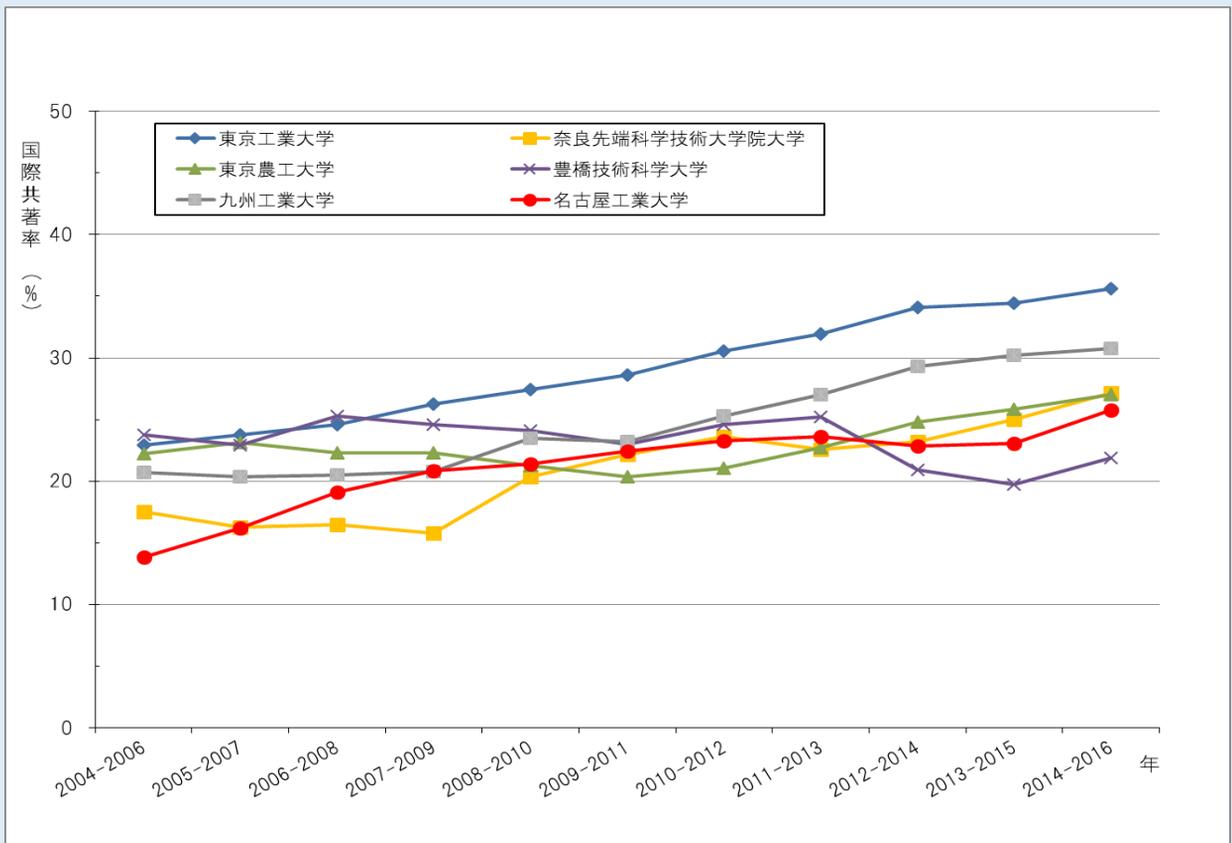
## 【 7 】 国際共著論文のトレンド

漸増している。



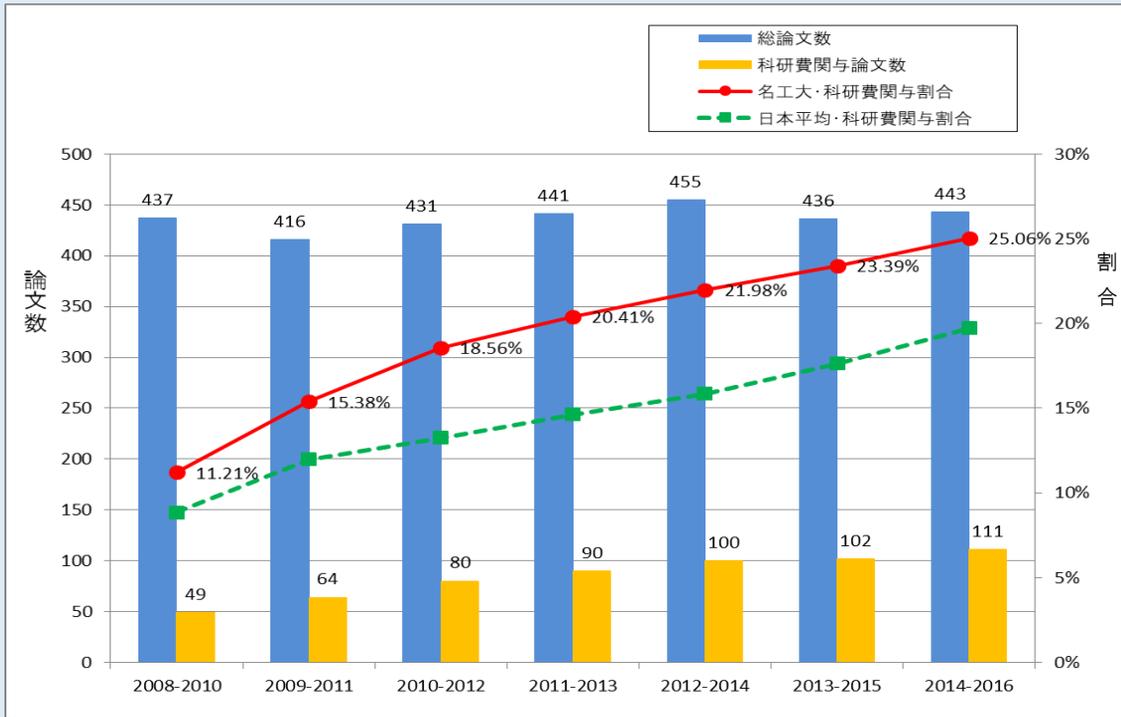
## 【 8 】 国立工業系大学における国際共著率の比較 (国際共著論文数割合の比較)

増加傾向。



## 【9】 名工大の論文産出への科研費の関与

科研費研究による論文シェアは25%まで増加。



## 【10】 名工大科研費獲得額の推移

科研費獲得額は漸増。

(2016年組織改正による値)

